

「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について

■令和4年度第2回協議会の振り返り

令和4年度第2回尼崎の森づくり協議会において、以下の通り『「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について（案）』について協議した。これに基づき、本年度は環境学習の実態調査や今後のあり方についての調査・検討を、下記①から④の方法で実施する。

（抜粋）令和4年度第2回尼崎の森づくり協議会（R5.3.8） 資料5より

令和5年度の実施について

1 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について（案）

尼崎の森中央緑地、尼崎運河、魚つり公園など、森構想エリアの各所において環境学習が行われている。また、森構想エリア内の企業やその他団体も環境学習に取り組んでいる。しかし、その対象や目的は各活動で様々であるため、それらを明確化し十分な連携や効果を生むことを目的に「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」を検討する。その上で、森構想エリアである尼崎南部地域を、環境学習が集中する先進的な地域としてアピールしていくことを目指す。

① 構想エリア内の環境学習についての調査

- ・中央緑地、運河ほか、企業、団体などの取組みを確認、調査
- ・それぞれの目的、趣旨やより効果的な実施方法、課題などを探る

② 第1回森づくり協議会（9月上旬）での報告・議論

- ・上記1の調査結果を報告し、新たな取組みを議論

③ 環境学習フェスティバル（9月23日予定）等の情報発信イベントの開催

- ・構想エリア内の環境学習を広く知ってもらう機会とするとともに、参加者からのヒアリングなどを行い、環境学習ニーズの調査を行う。

④ 上記を踏まえ「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」のとりまとめ

- ・第2回森づくり協議会で議論、検討を行う。

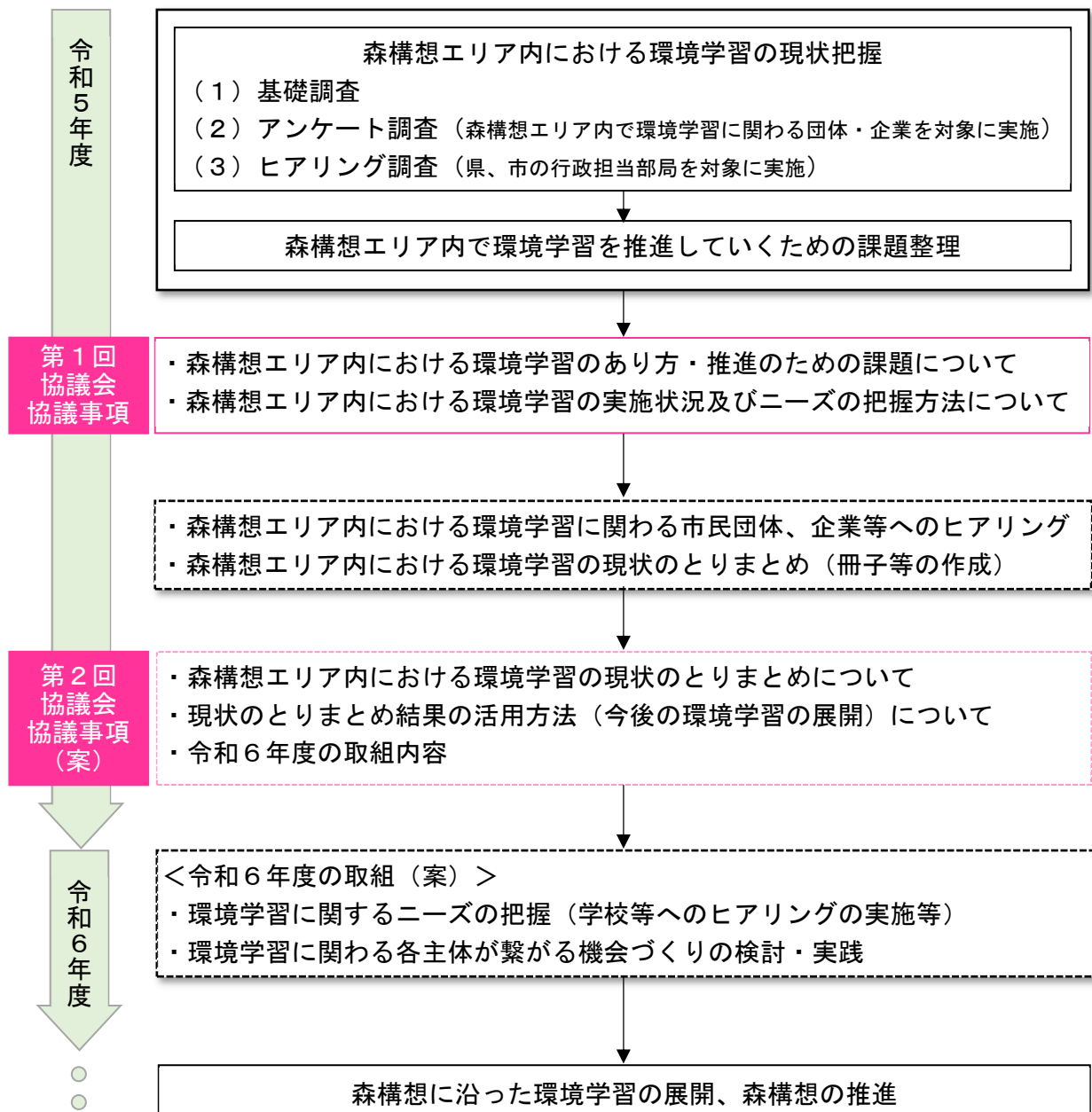
※必要に応じ、環境学習へ携わる者からのヒアリングを行う。

■今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」検討の目的

森構想エリアである尼崎臨海地域を、森構想に沿った環境学習が集中する先進的な地域としてアピールしていくため、森構想エリア内で実施されている様々な環境学習の取組について、実施状況や目的等の現状を把握し、森構想エリア内における環境学習の特徴を明らかにする。さらに、各主体間で環境学習の現状について情報共有し、連携した取り組みを進めるとともに、森構想エリアの特徴を活かした環境学習を展開することで、それらを通じて森構想への理解を深めていただき、森構想の更なる推進に繋げることを目的とする。

■検討手順

令和5年度の検討内容と協議会における協議事項（案）、令和6年度以降の取組案を以下に示す。



■ 調査概要

構想エリア内の環境学習についての調査方法を以下の図に示す。

まず、「1) 前提条件」を調査するために、関連計画を整理する。

次に、「2) 現状把握」として、構想エリア内の環境学習の取り組み状況を把握するために、「(1) 基礎調査」「(2) アンケート」「(3) ヒアリング」を行う。3つの調査を基に「(4) 総括」で森構想エリア内の環境学習の課題を整理する。

以上から把握した課題を基に、「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の方向性について検討する。

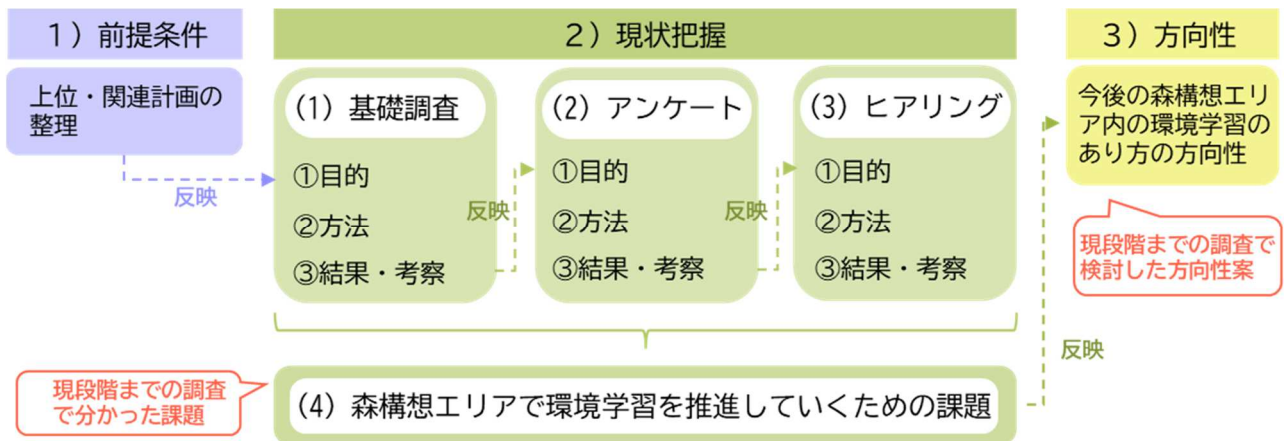


図 調査の実施フロー

1) 前提条件

(1) 上位計画

上位計画である「尼崎21世紀の森構想（平成14年策定）」と「尼崎21世紀の森づくり行動計画（令和5年3月改訂）」と整合を図りながら本計画を策定する。

(2) 関連計画

環境学習に関する関連計画として「新兵庫県環境学習環境教育基本方針（平成28年策定）」を参考とし、「環境学習・教育のあり方」等の視点から、構想エリア内の環境学習についての調査を進める。

環境学習・教育のあり方

◆ 推進にあたっての基本的考え方(3つの原則)

原則1 「自然」、「暮らし」、「社会」のつながりを総合的に学び、「こころ」を育む環境学習・教育の推進

- 「いのちのつながりを学ぶ」 - いのちを大切に思うこころの醸成 -
- 「生態系を理解する」 - 生物多様性の理解 -
- 「暮らしの知恵を学ぶ」 - 環境にやさしいライフスタイルの実践 -
- 「社会とのかかわりを知る」 - 社会・地域と結びついた環境学習・教育 -
- 「総合的な理解を促す」 - 体験を通じた総合的学習 -

原則2 自ら「体験」、「発見」し、自ら「学び」、「行動」する環境学習・教育の推進

- 「環境を体験し、感動する」 - 体験・発見 -
- 「環境を学び、知る」 - 知識・理解 -
- 「環境を考える」 - 思考・判断 -
- 「環境の保全と創造に向け行動する」 - 参加・行動 -

原則3 本県の特性を踏まえ環境学習・教育の推進

- 「多様性を生かす」 - 地域の多様な自然・風土の活用 -
- 「県民主役で取り組む」 - 県民の参画と協働 -
- 「防災の視点を取り入れる」 - 阪神・淡路大震災や風水害等の自然災害の教訓継承 -
- 「国際協力・交流を推進する」 - 国際的機関の活用 -

◆ 各主体における環境学習・教育の推進

学校・教育機関、大学・研究機関

- 学校等においては、体験活動や各教科、総合的な学習の時間等を通して、環境に関する意識や環境を大切にする価値観の醸成、知識の習得等を実現する環境学習・教育を実施することが期待されます。
- 大学等の研究機関は、専門課程において、新たな方法を研究し、専門的人材を養成し社会に送り出すことが期待されます。

地域団体（民間団体）

- 地域で中心的な役割を果たし、自らが有する知見、行動力を活用し、学校や企業の取組を支援することが期待されます。

企業・事業者

- 企業は、事業活動の内外で環境学習・教育に取り組むことが求められます。
- 地域の環境学習・教育の支援や環境保全・創造活動に積極的に参画することが期待されます。

中間支援組織

- 各主体に対し支援情報提供、コーディネートを行い、多様な主体の交流・連携を支援することが期待されます。

行政（県・市町）

- 県：学校等教育機関や地域団体、中間支援組織、市町などをつなぐ役割を持ち、必要な支援を実施することが期待されます。
- 市町：本方針を参考としつつ自らの行動計画等の策定・実施し、各主体との連携のもと、地域の実情に即した活動を展開することが期待されます。

◆ ライフステージに応じた環境学習・教育の推進

乳幼児

- 五感で自然と親しめる機会を通して、好奇心や探究心、それらを生活や遊びに取り入れていこうとする力を養うことが期待されます。

小学生

- 環境とのかかわりや体験を通して、豊かな感受性や環境への見方や考え方を育み、責任ある行動や協力して問題解決する実践力を培い、環境に配慮した生活習慣を確立することが期待されます。

中学生

- 学習と実践の一体的展開により、環境に配慮した行動を自発的にとれるよう促すとともに、持続可能な社会形成の重要性を認識することが期待されます。

高校生

- 論理的かつ科学的な学習を進めるとともに持続可能な社会をめざし主体的に行動することが期待されます。

大学生

- 専門課程等を通じて積極的に学び、持続可能な社会づくりに積極的に取り組むとともに、環境学習・教育の指導者、教育者として幅広い専門的知識の習得が期待されます。

社会人世代

- 日常生活を通じて環境学習・教育の成果を実践するとともに、新たな環境課題等への理解を深めるとも、環境保全・創造活動の大切さを子に伝えることが期待されます。

シニア世代

- くらしの知恵や先代から受け継いだ自然環境や風土などを子や孫とともに実践し、次世代に伝承するなど、多世代交流を通じて地域理解を促進する役割が生徒を通じて期待されます。

多様な自然・風土

兵庫県の自然環境、文化、地域の多様性を生かした環境学習・教育の推進

参画と協働

地域づくりと環境学習・教育の連携を参画と協働により推進

自然災害の教訓継承

自然環境と防災との関係や自然災害のメカニズム等を科学的に理解

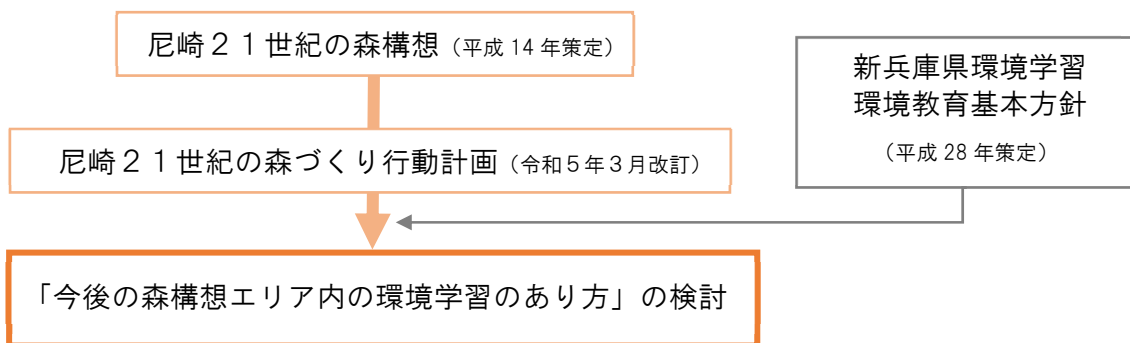
国際的機関の活用

APNセンター、IGES 関西研究センター、国際エナックスセンター等の国際的機関を活用

兵庫県らしい特色ある環境学習・教育

- 地域に根ざしたプログラム
- 県民主役のプログラム
- 防災の視点を取り入れたプログラム
- 「世界と結びついたプログラム」

(3) 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討の位置付け



2) 現状把握

(1) 基礎調査

①目的

森構想エリア内の環境学習の取り組み状況を把握するために、森構想エリア内で行われている環境学習あるいは、関連する取組みについて調査を行った。

②調査方法

環境学習について把握すべき事項を上位・関連計画を参考に整理し、以下の既存資料を収集して、森構想エリア内で行われている環境学習あるいは、環境分野に関する活動を実施している企業及び市民団体を調査した。

既存資料名	発行者
尼崎 2 1 世紀の森づくり SDGs 推進ガイドブック	尼崎 2 1 世紀の森づくり協議会
令和 2 年度第 1 回尼崎の森づくり協議会 資料 2 「森構想エリアでの活動のあり方について」	尼崎の森づくり協議会事務局
環境学習プログラム紹介冊子 令和 5 年度版	尼崎市

③結果・考察

既存資料で調査した「尼崎 21世紀の構想エリア内の環境学習の取り組み状況」を以下に示す。

表 森構想エリア内の環境学習の取組状況一覧

実施団体	環境学習分野			活動形態					対象
	生態系	くらしの知恵	社会とのかかわり	ブース出店	出前授業	工場見学	野外	主な活動拠点	
企業 環境学習に取り組む企業	A社	●		●					
	B社	●			●				
	C社	●				●			小学3～6年生
	D社	●					●		小学校高学年～一般
	E社	●							
	F社	●							
市民団体 環境学習に関する企業・市民団体	団体A	●					●	尼崎の森中央緑地	主に小学3年生
	団体B	●		●					
	団体C	●	●			●	●	尼崎の森中央緑地	幼児～一般
	団体D	●	●	●		●			小学生～一般
企業 環境分野に関する活動をしている企業・市民団体	G社	●					●	尼崎港	
	H社	●					●	尼崎の森中央緑地	
	I社	●					●	尼崎の森中央緑地	
	団体E	●	●				●	尼崎運河	
	団体F	●	●				●	尼崎運河	
	団体G	●	●				●	尼崎運河	子ども～大人
	団体H	●		●			●	尼崎運河周辺	
	団体I	●		●			●	尼崎運河周辺	
	団体J	●					●	尼崎港	
	団体K	●	●	●			●	尼崎港	

※環境学習分野の「生態系」「くらしの知恵」「社会とのかかわり」は、「新兵庫県環境学習環境教育基本方針」（兵庫県 農政環境部 環境創造局 環境政策課）において示されるの3つの分野。

基礎調査の結果から、尼崎21世紀の森構想エリアにおける環境学習について、以下3点の特徴があることが分かった。

特徴①：各事業者・団体の専門分野をいかした環境学習が行われている

様々な業種の企業が集まり、また、それぞれに活動目的を有する市民団体が活動していることから、それぞれの専門分野をいかした多様な環境学習が実施されている。

特徴②：多様な環境で、様々な形態の環境学習が行われている

森を中心とした尼崎の森中央緑地、尼崎運河、海、企業敷地内など、多様なフィールドで環境学習の取組が実施されている。また、野外での実施や自社敷地内のほか、出前授業やイベントの開催など様々な方法で環境学習が実施されている。

特徴③：幅広い年齢層を対象に環境学習が行われている

未就学児や小学生といった子供向けの環境学習から、生涯学習やシニア世代といった大人向けの環境学習まで、様々な年齢層を対象とした環境学習が実施されている。

まとめ

尼崎21世紀の森構想エリア内における環境学習は、3つの多様性があり、活発に環境学習が展開されている地域であることが分かった。